

テレビが映した国道 16 号線

——NHK『72 時間』と TVK『キンシオ』を事例として——

法政大学大学院 丸山友美

1 目的

本報告の目的は、国道 16 号線（以下、16 号）を映した 2 つのテレビ番組取り上げて、16 号が織りなす道と町の間を考察することにある。本研究が考察にあたり取り上げるのは、NHK『72 時間』で放送された「オン・ザ・ロード 16 号の“幸福論”」（2014 年 6 月 13 日放送）と、TVK『キンシオ』で特別版として制作された「123 の旅 16 号を行く～気ままなぶらり旅」（2012 年）である。前者は、定点カメラが映した町や人の 72 時間を見せるドキュメンタリー番組で、後者は、画家のキン・シオタニが色々な町を探訪する旅番組である。どちらもぐるりと一周して 16 号を記録しているとはいえ、その道の走り方には違いがある。一方はひたすら 16 号を走り続け、もう一方は 16 号を外れて道がつなぐ町のマニアックな場所を次々と探訪するという違いである。両者の間で道の走り方に違いが出てしまうのは、16 号が織りなす道と町が関係しているのではないか。本報告は、2 つの番組の比較から、「国道 16 号線」がどのような道であるのか検討するものである。

2 方法

まず、それぞれの番組がどのように 16 号を走り進んだのか把握するため、本研究では、映像に映り込んだ店舗名や建物などを手がかりに、立ち止まった場所や立ち寄った店などに印をつけた地図を作成した。そうした地図を作成することによって、それぞれの番組が 16 号のどこを走ったのか（あるいは 16 号のどこを走らなかったのか）を確認する。次に、16 号の映し方に注目するため、フレームサイズやアングル、発話内容といった映像の構成要素を「構成表」として書き起こし、16 号がどのような道として映されているのか検討する。

3 結果・結論

分析の結果、16 号を車で走り進む『72 時間』は、2 列から 3 列で並び進む自動車の列と、それに押しやられるように細い歩道を歩く人々をしばしば映していた。番組は、歩道を歩く人々を見つけると車を路肩に停めてインタビューを試みようとするが、16 号では、思い立って突然車を路肩に停めることはできない。そのため、カメラは歩道を歩く人を追い越してから車を止め、歩き戻りながら声をかけていた。もう一方、16 号がつなぐ町を探訪していく『キンシオ』は、しばしば旧道や県道に車を進入させていた。そうして脇道を走り進んだシオタニの前に表れるのは、商店街や街道といった町の中心部である。町にたどり着いたシオタニは、車を降り、自分の足で町を歩きながら純喫茶などに立ち寄っている。番組は、そのように 16 号のつなぐ町の歴史を見つけるシオタニを映していた。

以上 2 つの番組の比較から、16 号は、車のスムーズな走行を目標として設置されたバイパスであるために、町中の往来の様式やリズムとは一致しない道として映されていることが示された。そのような道の性格によって、16 号をひたすら走り続けて道を映した『72 時間』には町が映らず、16 号のつなぐ町を探訪する『キンシオ』には道がほとんど映らない。道を撮れば町を見落とし、町を撮れば道を見落とす。こうした 16 号の走り方と映し方の違いが何を表しているかといえば、道と町を「無縁」なものにする、あるいは、町と道を「絶縁」させる 16 号の織りなす道と町の間である。そのように走り方と映し方の異なる 2 つの番組を比較するとき、16 号の特性は示される。本報告では、そうした 2 つのテレビ番組の内容について提示するとともに、それを分析する手法について検討する。